

ボツワナ共和国月報(2019年3月)

主な出来事

【内政】

- 政府はボツワナ食肉委員会(BMC)の牛肉輸出の独占をやめる
- 国会議員12名が与党BDP離脱の可能性
- ボツワナは最も不幸な国にランクイン

【外政】

- BDP・ANC共同会議開催
- カーマ前大統領チベット動乱の60周年記念式典へ出席
- ツォフワネ副大統領の西サハラとのSADC結束会議への出席

【経済】

- Koemacau Copper Mine 社、銅鉱山プロジェクトに係る融資契約を締結
- ボツワナ電力公社 CEO の退任
- 金融安定評議会の設置

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

【内政】

○政府はボツワナ食肉委員会(BMC)の牛肉輸出の独占をやめる

ボツワナ政府はBMCを民営化し、市場を開放し、牛肉輸出独占を止める過程にある。本年11月に開会する国会でBMC法の改正が議論され、それまでに実施可能性につき調査が行われる予定。(2月27日:ガゼット紙)

○AP議員離脱, APは有言実行でないと主張

2月28日、ハスキンス・ンカイグワ議員は野党APを離党し、野党連合UDCに再度戻ることを決めた。APは当初、BDMのピラネ党首がUDCから離れた際には、APはUDCに戻ることにしていたが、実行していないことを離脱の理由に挙げた(当館注: APはBMDから離脱した議員が作った政党)。(3日:サンデー・スタンダード紙)

○手綱を民間に引渡すべき

4日、ボツワナを訪問中のIMFボツワナ調査団のンディアイエ団長は、マシシ大統領を表敬し、ボツワナ経済の成長には民間の関与が重要であると述べた。(6日:デイリー・ニュース紙)

○奇病がサラジュウェの学生を襲う

5日～6日にかけ、サラジュウェにあるレンプ中学校で120名の学生が集団で膝のしびれなどを訴える病気が発生した。患者のほとんどが女子寮生であり、歩くことができない状態となった。医者が調査を行ったが、原因不明のままである。一部では、過去に同じ症状が教会の介入で治ったことから、祈りを捧げるよう呼びかけている。(8日:デイリー・ニュース紙)

○10年後、プライベートメディアが大統領府に戻る

1日、マシシ大統領はメディアを大統領府に呼び朝食会を開催した。前回、ボツワナの大統領が地元のメディアを大統領府に呼んだのはおよそ12年前のことであった。(8日:メヒ紙)

○独立選挙委員会が選挙人登録を延長

独立選挙委員会は2度目の選挙人登録の延長を表明し、4月15日から28日までの期間、再度登録が可能になった。(11日:デイリー・ニュース紙)

○国会議員12名が与党BDP離脱の可能性

BDPの国会議員12名が数週間以内に離党し、無所属となるかもしれない。カン(Kang)でのBDP党内の選挙及びその後の出来事が、彼らの行動計画を決定することになる。もし12名全員が離党することになれば、BDPは国会で過半数の議席を維持できなくなり結果的に(BDP)政権が崩壊するかもしれない。(16日:ウィークエンドポスト紙)

○グマ・モヨ議員の国外逃避及び汚職疑惑

サムソン・グマ・モヨBDP議員(タティ・イースト選出)は、暗殺の危険があるとして、国外に退避している。一方で、同氏の経営する会社URBは、2,900万プラの事業を勝ち取ったが、税金を払っていないと言われており、さらに、CEDA、BDC及びFNBBから得た資金6,300万プラも不正利用した疑いがかけている。合計2,000万プラの税金をボツワナ統一歳入庁に支払っていないと言われている。(22日:メヒ紙)

○国会議員は不当に国会に出席している

8日、国会において、野党UDCのサミュエル・ラントウナ議員が、何人の国会議員がボツワナの選挙法で規定されている、選挙後の選挙資金の出所と用途の公開を守っているのかという質問をした。これに対し、モレフィ大統領府・統治・公共政策担当大臣は、誰も守っておらず、全議員が法を破っているようであると認めた。今後の対応については、司法長官に委ねられた。(13日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ボツワナは最も不幸な国にランクイン

2016年から2018年の調査に基づいた2019年の世界幸福度指数によると、ボツワナは156

か国中148位にランクされた。他の最下位に近い国は、マラウイ、イエメン、ルワンダ、タンザニア、アフガニスタン、中央アフリカそして南スーダンである。(22日:デイリー・ニュース紙)

○ 軍がレッド・アラートを発出

ボツワナ軍諜報機関のトップであるトゥルハヘ准将は、先週金曜日(22日)、南アフリカ軍のカウンターパートから、ボツワナで迫り来るクーデターについての警告及び質問を受けた。それを受け、同准将はその情報を司令官であるセホコ將軍に伝え、同將軍は軍にレッド・アラートを発出した。レッド・アラートは軍事・セキュリティ警報システムで最上位の緊急事態を表す。それにより、マシシ大統領が住む大統領府近く及び国営テレビ局BTV並びにラジオ・ボツワナが入るマスメディアコンプレックスに配備された。(24日:サンデー・スタンダード紙)

○ マシシ大統領がBDP全14地区で指名される

4月5日に開催されるBDP大統領候補を決定するBDP特別総会に向け、BDP全14地区で大統領候補者の指名が終了した。その結果、全14地区でマシシ大統領が指名された。(25日:モニター紙)

○ 元BDP国会議員によるマシシ大統領支持の声明

元BDP国会議員39名が連名で、全てのBDP黨員に対し、4月にカンで開催されるBDP特別総会でマシシ大統領を応援し、2019年の総選挙に向けてマシシ大統領がBDPを率いるよう支援するよう呼びかけた。(27日:デイリー・ニュース紙)

○ 国際連合貿易開発会議(UNCTAD)は経済の移行について内閣と協議する

キトウイUNCTAD事務局長に率いられたチームは29日~30日にかけて実施される内閣のリトリートに招待され、資源経済から知識経済への移行の戦略を議論した。(29日:デイリー・ニュース紙)

【外交】

○ アフリカ連合委員会は問題に立ち向かう

アジェンダ2063の進捗状況を確認するためのアフリカ連合委員会会議がハボロネで開催された。ダウ外相は、14のフラッグシップ案件のうちアフリカ大陸自由貿易圏(ACFTA)、単一アフリカ空輸市場(SAATM)及び人・モノ・サービスの自由な移動に関する議定書の3つにおいて大きな進歩があったと述べた。(7日:デイリー・ニュース紙)

○ カーマ前大統領チベット動乱の60周年記念式典へ出席

カーマ前大統領はチベット動乱の60周年記念式典に参加し、無実のダライ・ラマが支援を必要と

していることを繰り返し述べた。なお、ボツワナ政府は、カーマ前大統領の同式典出席を公然と非難した。(13日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ BDP・ANC共同会議開催

5日、ボツワナ民主党(BDP)及びアフリカ民族会議(ANC)は、ヨハネスブルグのルトウリ・ハウス(Luthuli House)において、歴史に関する事項、選挙等における分野での協力関係及び情報共有、両党の関係構築について会合を行った。BDPはバロピ幹事長が代表を務め、ANCはマガシユレ幹事長が代表を務めた。(18日:モニター紙)

○ファーウェイがICTを勉強するため10名支援

ファーウェイ・ボツワナによると、同社の「Seeds for the Future」ICT タレント・トレーニングプログラムの下で、ボツワナ人学生10名を3週間中国に派遣する。派遣される10名は、ICTに関連する様々な訓練に参加する。(25日:デイリー・ニュース)

○カズングラ橋建設計画 10 か月遅延

カズングラ橋プロジェクトの完成は、当初今年8月とされていたが、現在では来年6月と予想されている。(26日:デイリー・ニュース紙)

○ツォフワネ副大統領の西サハラとのSADC結束会議への出席

26日、ツォフワネ副大統領は南アフリカで開催された「サハラ・アラブ民主共和国」とのSADC結束会議に出席し、ボツワナが引き続き西サハラを主権国家及びAUの完全な設立当初からの加盟国と認識することを明確にした。(27日:デイリー・ニュース紙)

○中国とボツワナは野生動物保護のために協働する

27日、中国国家林業草原局(NFGA)及び世界自然基金(WWF)は、在ボツワナ中国大使館の協力の下、ボツワナに居住する中国人に対して、野生動物の違法な取引を防ぐ意識向上のためのワークショップを開催した。(29日:メヒ紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

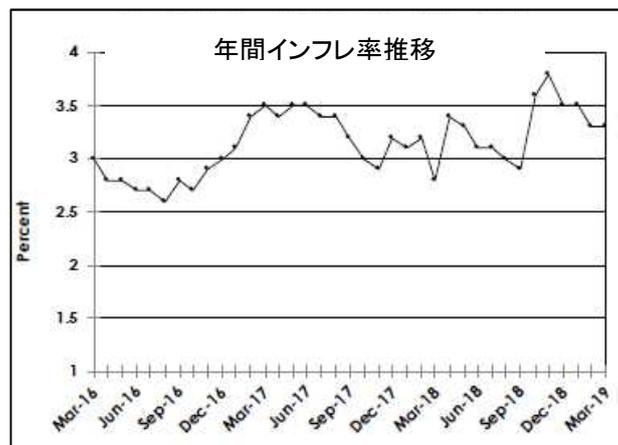
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2018年第3四半期の GDP は484億9160万プラとなり, 第3四半期(486億9930万プラ)と比べて0.5%減となった。(2018年GDP合計は1898億6850万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2019年3月は3.3%(2019年2月は3.3%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

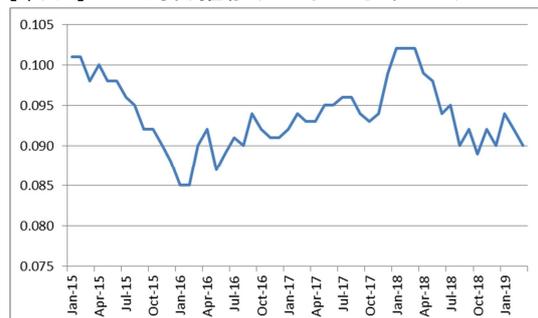
2019年3月29日

1プラ=0.090米ドル
1プラ=1.305南ア・ランド
1プラ=10.07円

2019年2月28日

1プラ=0.092米ドル
1プラ=1.279南ア・ランド
1プラ=10.31円

[米ドル] 為替推移(1プラ=〇米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=〇円)



○ **ダイヤモンド産業**

1) **デブスワナ社の第9次拡張(Cut9), 1000名以上の雇用を生み出す**

デブスワナ社(当館注:ボツワナ政府とデビアス社との合弁企業)によると, 当地ジュワネン鉱山における第9次拡張(Cut9)プロジェクトにより, 1000名以上が雇用され, 同鉱山の寿命は2035年まで延長される見通しである。また, 同プロジェクトの開始により, 5300万カラットのダイヤモンド原石の生産が見込まれる。(27日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ **エネルギー・資源**

1) **Koemacau Copper Mine 社, 銅鉱山プロジェクトに係る融資契約を締結**

Koemacau Copper Mine 社は, 親会社と共に当地北西部で銅・銀鉱業操業を開始するための5億6500万ドルの融資契約を結んだ。最初の銅生産は2021年の上半期に予定されており, 6万2千トンの銅及び190万オンスの銀の生産が予測されている。(15日:メヒ紙)

2) **ボツワナ電力公社 CEO の退任**

8日, シュワルツフィッシャー・ボツワナ電力公社(BPC)CEO は退任した。当初同 CEO は2月28日に退任する予定であったが, 退任に関する交渉が続いていた。(8日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ **ボツワナ銀行, 基本割引率・基準貸付利率を5.0%に維持**

2月27日, ボツワナ銀行は, 金融政策委員会を開催し, インフレ率が政府目標の3~6%内となっており, インフレ率の見通しが安定的でポジティブであることを受け, 基本割引率・基準貸付利率(当館注:従来の公定歩合)を5.0%に維持する決定を公表した。(1日:デイリー・ニュース紙)

○ **金融安定評議会の設置**

ボツワナ銀行は, 進行中の危機に対処し, 金融部門を管理する目的で他の財務関連機関と共に金融安定評議会(FSC:Financial Stability Council)を立ち上げた。FSCの役割は金融システムの安定に必要なあらゆる分野における情報交換, 協力及び調整である。FSCは財務・経済開発省, ボツワナ中央銀行, 非銀行金融機関規制庁及び金融情報庁の幹部で構成される。(6日:ボツワナ・ガゼット紙)